

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目名：	ホテル業界論Ⅰ・Ⅱ			担当教員：			下山直久 先生		4 単位	
実務経験	あり	経歴	10年以上ホテル業界にて勤務							
講義名：		ホテル業界論Ⅰ・Ⅱ								
1 年	授業時間数： 60 時間		授業形態：		講義	60	演習		実習	

概要と学習目標

概要：日本におけるホテル・旅館の特徴を学び、日本の観光及びおもてなしを理解する

学習目標：日本のホテル業に就職するための、基礎知識や接客スキルを身につける

使用教材：初心者しやすい 旅館ホテル・観光の教科書

成績評価項目 と評価割合	出席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60点未満、F：50点未満 【可否の別】合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
2	第1章 日本の観光ビジネスの概要（8～17ページ）	講義
2	第1章 日本の観光ビジネスの概要（18～27ページ）	講義
2	第2章 日本の宿泊施設の分類（28～55ページ）	講義
2	第2章 日本の宿泊施設の分類（56～78ページ）	講義
2	第3章 組織とスタッフの業務（82～94ページ）	講義
2	第3章 組織とスタッフの業務（94～114ページ）	講義
2	第3章 組織とスタッフの業務（115～127ページ）	講義
2	第4章 専門職に求められるスキル（128～133ページ）	講義
2	第4章 専門職に求められるスキル（134～139ページ）	講義
2	第5章 実務の基礎知識（140～143ページ）	講義
2	第5章 実務の基礎知識（144ページ）	講義
2	第6章 日本の作法（156～169ページ）	講義
2	第6章 日本の作法（170～175ページ）	講義
2	学期のまとめ	講義
2	学期のまとめ	講義

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目名：	ホテル業界論Ⅲ・Ⅳ			担当教員： 下山直久 先生				4 単位	
実務経験	あり	経歴	10年以上ホテル業界にて勤務						
講義名：		ホテル業界論Ⅲ・Ⅳ							
1 年	授業時間数： 60 時間		授業形態：	講義	60	演習		実習	

概要と学習目標								
概要： 観光・宿泊産業の中核である「ホテル業界」について、基礎知識を体系的に学びます。								
学習目標： ホテル業界の構造・特徴・役割を理解する・ホテルにおける各部門（宿泊・料飲・管理など）の基本機能を説明できる・接遇・ホスピタリティの基本概念を理解し、業務における応用の視点を持つ								
使用教材： ホテルビジネス基礎								

成績評価項目	出席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
と評価割合	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】 合格：A、B、C 【不合格】 D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
2	オリエンテーション／ホテルとは何か	講義
2	ホテルの歴史と発展	講義
2	ホテルの分類と形態	講義
2	フロント業務の役割	講義
2	客室部門の機能	講義
2	料飲部門の機能	講義
2	マネジメントと収益構造	講義
2	ホスピタリティとは何か	講義
2	実例：クレーム対応	講義
2	グローバルホテルと多言語対応	講義
2	ホテル業界とIT・DX	講義
2	SDGsとホテル業界	講義
2	ホテル業界で働くには	講義
2	グループ発表：理想のホテル企画	講義
2	まとめ・振り返り・修了試験	講義

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目名：	MOS対策Ⅰ・Ⅱ			担当教員：小西 裕子 先生				4 単位	
実務経験	あり	経歴	専修学校にて長年IT教員として勤務						
講義名：		MOS対策Ⅰ							
1 年	授業時間数： 60 時間		授業形態：	講義	30	演習	30	実習	

概要と学習目標

概要： 実社会での業務に不可欠なMOSの技能の習得を目指す。

学習目標： 基本操作ができるレベルから始め、新しいMOS2016の試験合格のレベルを目指しスキルの上達を図る。

成績評価項目 と評価割合	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】 合格：A、B、C 【不合格】 D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
2	Excelワークシート、ブックを作成する	講義・演習
2	Excelワークシート、ブックのオプションと表示をカスタマイズする	講義・演習
2	Excel配布するためにワークシート、ブックを設定する	講義・演習
2	Excelセルやセル範囲にデータを挿入する	講義・演習
2	Excelセルやセル範囲の書式を設定する	講義・演習
2	Excelデータをまとめ、整理する	講義・演習
2	Excelテーブルを作成し管理する	講義・演習
2	Excelテーブルのスタイルと設定オプションを管理する	講義・演習
2	Excelテーブルをフィルターする	講義・演習
2	Excel関数を使用してデータを集計する	講義・演習
2	Excel関数を使用して条件付きの計算を実行する	講義・演習
2	Excel関数を使用して書式を設定する	講義・演習
2	Excelグラフを作成する	講義・演習
2	Excelオブジェクトを挿入する、書式設定する	講義・演習
2	学期のまとめ	講義・演習

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目名：	MOS対策Ⅲ・Ⅳ			担当教員：小西 裕子 先生				4 単位	
実務経験	あり	経歴	専修学校にて長年IT教員として勤務						
講義名：		MOS対策Ⅱ							
2 年	授業時間数： 60 時間		授業形態：	講義	30	演習	30	実習	

概要と学習目標

概要： 実社会での業務に不可欠なMOSの技能の習得を目指す。

学習目標： 基本操作ができるレベルから始め、新しいMOS2016の試験合格のレベルを目指しスキルの上達を図る。

成績評価項目 と評価割合	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】 合格：A、B、C 【不合格】 D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
2	Word文書の管理	講義・演習
2	Word文字、段落、セクションの挿入と書式設定	講義・演習
2	Word表やリストの管理	講義・演習
2	Word参考資料の作成と管理	講義・演習
2	Wordグラフィック要素の挿入と書式設定	講義・演習
2	Word文書の共同作業の管理	講義・演習
2	wordまとめ	講義・演習
2	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	講義・演習
2	PowerPointテキスト、図形、画像の挿入と書式設定	講義・演習
2	PowerPoint表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入	講義・演習
2	PowerPoint画面切り替えやアニメーションの適用	講義・演習
2	PowerPoint複数のプレゼンテーションの管理	講義・演習
2	MOS2016対策	講義・演習
2	MOS2016対策	講義・演習
2	学期のまとめ	講義・演習

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目名：	コミュニケーションスキルⅠ			担当教員：			柴田哲志 先生		4 単位	
実務経験	あり		経歴	プロデューサーとして20年メディア最前線で活躍。						
講義名：			コミュニケーションスキルⅠ（メディア論）							
1 年	授業時間数：		60 時間	授業形態：		講義	60	演習		実習

概要と学習目標

概要： メディアの歴史的変遷を理解し実社会の様々な場面で活用できる力を養う

学習目標：新聞、電話、映画、ラジオ、テレビにいたるメディアの変遷を技術論のみならず社会的枠組みの中で捉えて理解する

成績評価項目 と評価割合	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
	(2/3以上とする)	50%	50%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【合否の別】合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
2	【メディアとは何か】自己紹介、本講義の進め方を理解し、目標設定を共有する	講義
2	【方法としてのメディア1】メディアの時代による推移	講義
2	【方法としてのメディア2】メディアの理論と複製技術	講義
2	定期小テスト①または課題	講義
2	【新聞学1】新聞が果たしてきた社会的機能	講義
2	【新聞学2】新聞と世論、プロパガンダ	講義
2	【マスコミュニケーション1】第2次大戦に見るプロパガンダ	講義
2	【マスコミュニケーション2】テレビ時代とマスコミュニケーション理論の限界	講義
2	定期小テスト②または課題	講義
2	【印刷革命と電子メディア1】電子メディア誕生	講義
2	【印刷革命と電子メディア2】印刷革命がもたらした近代	講義
2	定期小テスト③または課題	講義
2	【文化的アプローチとこれからのメディア1】	講義
2	【文化的アプローチとこれからのメディア2】	講義
2	最終課題	講義

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目名：	コミュニケーションスキルⅡ			担当教員：柴田哲志 先生				4	単位
実務経験	あり	経歴	プロデューサーとして20年メディア最前線で活躍。						
講義名：		コミュニケーションスキルⅡ（メディア論）							
2 年	授業時間数：	60 時間	授業形態：	講義	60	演習		実習	

概要と学習目標									
概要： メディアの歴史的変遷を理解し実社会の様々な場面で活用できる力を養う									
学習目標：新聞、電話、映画、ラジオ、テレビにいたるメディアの変遷を技術論のみならず社会的枠組みの中で捉えて理解する									

成績評価項目 と評価割合	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
	(2/3以上とする)	50%	50%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
2	【歴史としてのメディア】本講義の進め方を理解し、目標設定を共有する	講義
2	【新聞と近代ジャーナリズム 1】パンフレットから新聞へ	講義
2	【新聞と近代ジャーナリズム 2】ジャーナリズムの大衆化、近代化	講義
2	定期小テスト①または課題	講義
2	【電話 1】電話誕生と電信としての電話	講義
2	【電話 2】放送としての電話とエリア拡大	講義
2	【映画 1】動く写真	講義
2	【映画 2】興行としての映画	講義
2	定期小テスト②または課題	講義
2	【ラジオ 1】電波による交信、通信から放送へ	講義
2	【ラジオ 2】音楽を家庭に、マスメディアとしてのラジオ放送	講義
2	定期小テスト③または課題	講義
2	【テレビ 1】街頭テレビ、成婚パレード	講義
2	【テレビ 2】国民的メディアとしてのテレビ	講義
2	最終課題	講義

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目名：	PC応用			担当教員：	坂野 透 先生			2	単位
実務経験	あり	経歴	長年エンジニアとして従事						
講義名：		プログラミング1～プログラミング＆プロジェクト運営の基礎～							
1 年	授業時間数：	30 時間	授業形態：	講義	15	演習	15	実習	

概要と学習目標

概要： PHP言語を使ったプログラミングとチーム開発コミュニケーション

学習目標：

- ①Webシステム構築の基礎を理解する
- ②チーム開発の基本であるコミュニケーション能力を養う

成績評価項目	出席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
と評価割合	(2/3以上とする)	80%	80%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【合否の別】合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
1	パソコン基礎操作 & Chapter1 イントロダクション	講義・演習
1	Chapter2 環境構築と動作確認	講義・演習
1	Chapter3 最初のPHPプログラミング	講義・演習
1	HTMLタグ実習 & 成果発表	講義・演習
1	Chapter4 制御構造とコントロール	講義・演習
1	Chapter5 関数を使いこなす	講義・演習
1	PHPプログラム試験	講義・演習
1	独自プログラム 1	講義・演習
1	独自プログラム 2	講義・演習
1	Chapter6 データベースの基本と操作	講義・演習
1	独自プログラム 3	講義・演習
1	Chapter7 実用的なスクリプト	講義・演習
1	Chapter8 Webアプリケーションとして公開する	講義・演習
1	独自プログラム 4	講義・演習
1	まとめ&総合評価	講義・演習

能達工科カレッジ

概要と学習目標
概要： ビル設備管理に関する基礎知識
学習目標：100点満点のうち60点以上を合格
使用教材：ビル設備管理初級教科書

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
3	建築物と保全	講義
3	管理の基礎知識	講義
4	建築物・搬送設備	講義
4	電気設備	講義
4	空調設備と換気	講義
4	給排水・衛生設備	講義
4	防災設備	講義
3	保全＆点検作業の基礎知識	講義
1	まとめ＆総合評価	講義

能達工科カレッジ

成績評価項目	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
と評価割合	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】 合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

[illegible]

能達工科カレッジ

成績評価項目	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
と評価割合	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】 合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

[illegible]

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目名：	CADⅢ・Ⅳ			担当教員：小林 敦 先生				4 単位	
実務経験	あり	経歴	2級建築士として、設計事務所勤務						
講義名：		CADⅢ・CADⅣ							
2 年	授業時間数：	60 時間	授業形態：	講義		演習	30	実習	

概要と学習目標

概要： CADの応用操作実習、CAD操作による様々なデザインの家屋平面図、課題製図作成

学習目標：100点満点のうち60点以上を合格

使用教材：建築製図入門

成績評価項目	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
と評価割合	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【合否の別】合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

回数	授業内容・到達目標	授業方法
4	基本練習図	講義・演習
4	平屋建専用住宅設計図①	講義・演習
4	平屋建専用住宅設計図②	講義・演習
4	2階建専用住宅設計図	講義・演習
2	店舗付き事務所設計図RC	講義・演習
2	店舗付き住宅設計図RC	講義・演習
2	集合住宅設計図RC	講義・演習
2	工場設計図	講義・演習
2	店舗付事務所設計図	講義・演習
4	とりまとめ	講義・演習

2025年度 シラバス

能達工科カレッジ

科目：	第2種電気工事士試験対策（技能）			担当教員： 富田勝彦 先生				6 単位	
実務経験	あり	経歴	第1種電気工事士資格を持ち、長年大手会社で生産技術部勤務						
講義名：		第2種電気工事士試験対策（技能）							
1 年	授業時間数：	90 時間	授業形態：	講義	45	演習		実習	

概要と学習目標

概要： 法令や規格の知識を身につけ、筆記試験での合格点（60点以上）を目指す

学習目標：電気理論と安全作業に関する基礎知識を修得する、配線図や器具に関する実務的知識を理解する

使用教材：第二種電気工事士 筆記試験 完全攻略

成績評価項目	出席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
と評価割合	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

回数	授業内容・到達目標	授業方法
3	電気の基礎①（電圧・電流・抵抗・オームの法則）	講義
3	開発の流れ，機械製図の基礎(1)；線，文字，記号	講義
3	機械製図の基礎(2)；第3角法，講義，実習	講義
3	機械製図の基礎(3)；第3角法，講義，実習	講義
3	機械製図の基礎(4)；第三角法で三面図を描く	講義
3	機械製図の基礎(5)；第三角法で三面図を描く，寸法を描く	講義
3	第3角法の図面から，立体をイメージするトレーニング	講義
3	等角投影法で立体を描く実習(1)；立方体	講義
3	等角投影法で立体を描く実習(2)；直方体，円	講義
3	等角投影法で立体を描く実習(3)；円，円柱	講義
3	等角投影法で立体を描く実習(4)；複合的な立体	講義
3	講義；金属材料の基礎	講義
3	講義；鋳造，VEの基礎	講義
3	講義；切削加工	講義
3	講義；溶接技術，まとめ	講義

能達工科カレッジ

成績評価項目	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
と評価割合	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】 合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

[illegible]

能達工科カレッジ

成績評価項目	出 席	授業態度 (振り返りシートで評価)	定期テスト・成果物
と評価割合	(2/3以上とする)	80%	20%
評価基準	A：80～100点、B：70～80点未満、C：60～70点未満 D：50～60 点未満、F：50点未満 【可否の別】 合格：A、B、C【不合格】D、F		
準備学習	予習・復習	事前にシラバスを熟読し理解しておくこと。 また講義内容の復習を行うこと。	

※1回90分2授業時間数相当

[illegible]